

議会だより

からうら

★ 特集号

No. 50

2010. 1. 30発行

「いきいき広報・
座談会」——②
町民インタビュー——④
一般会計補正予算——⑥

委員会ハイライト——⑧
委員会視察報告——⑨
8議員が一般質問——⑩▶⑰
スポーツクラブ紹介——⑱



阿波勝浦八景から 西岡、前松堂前 夢桜

50号
発行記念

いきいき いきいき 広報・座談会



「いきいきとした町づくりをめざして」と、平成九年九月に創刊した「議会だよりかつうら」が今回記念すべき五十号を迎えました。記念紙面を掲載するに当たり、初代委員長の西浜さん初め歴代の委員長出席のもと、座談会を開き苦話などを聞きました。

出席者

- 西浜勝己 (初代)
- 溝田義昭 (三代・四代)
- 国清 栄 (三代)
- 大西 一司 (五代・現)
- 川端雅夫 (議長・進行係)
- 広報委員 (松田、国清、節)

議長

新春を迎えおめでとう
ございます。歴代の編集
委員さんのおかげで、今回五十号
を発行することになりました。苦
労も多かったと思いますが、発行
に至った経緯をお聞かせいただけ
ますか。



川端議長

西浜

議会の広報誌を発行し
ようという議論は三十年
前からあり、町広報に載せた時期
があった。当時は職員が編集し、
半年後の広報に掲載されたが新鮮
さがなかった。

以前の反省を踏まえ議会独自の
広報誌を発行しようとして特別委員
会を立ち上げた。ゼロからの出発な
ので、創刊号発行までに十七回の
委員会を重ねた。生名の谷田さん
に嫁勢山を背景にした旧横瀬橋の
写真を借りて表紙にしたが、次号
からは委員が撮影した写真を用い
た。

その後は職員に負担をかけずに
編集は議員自らが全て行ってきた。

議長

西浜さんから委員長を
引き継ぎ、紙面づくりに
何が重要だと考えましたか。

溝田

当初、長くは続かない
との声もあったが、広報
委員の結束を強めることで充
実した紙面作りにつながると
考えた。

また、原稿を公正公平に編
集することを心掛けたが、先
輩議員の原稿には神経を使っ
た。

国清

町民に少しでも多く読
んでもらうため、文字数
を少なく文章を簡潔にし、写真を
多く取り入れた。



国清■栄氏

議長

当初は特別委員会であ
った広報委員会は、現在
常任委員会として先進地視察など
を実施しているが、現委員長とし
て感じたことはありませんか。

大西

大変な苦労を重ね現在
の議会だよりの土台づく
りをしてきたことを改めて感謝し
たい。

最近の編集作業ではパソコンを
使い作業が円滑になり、五、六日
で仕上がっている。

先進地では「どれだけの住民に
見てもらっているか」が重要とし
て全町を対象にアンケート調査を
実施し、出された意見、要望を次
回以降の広報で答えている。今後

はアンケート調査を計画し、住民の声を聞く場を多く持ち、議会活動の透明化を図りたい。

議長

一人でも多くの町民に読んでもらうことが重要ですが、計画しているアンケート調査についてどう考えますか。

西浜

発刊当時は議会活動がよく分かると町民は喜んでいただと思うが、現在はどうかなのか疑問だ。

目安としてアンケートで町民の本音を聞く必要があるのでは。興味のある必要な記事だったら町民は読んでくれる。



西浜議員

溝田

無作為でアンケートを送り実情を知るのが一番。また、読んでいない人に目を向けることが大事である。町民の記事や子供の写真を多く取り入れ興味を持ってもらう必要がある。



国清

アンケート内容も興味、のわくおもしろい物にし、議会が主役でなく、町民が主役の広報をめざし、いかにして紙面に参加してもらうかが大事だ。



溝田義昭氏

大西

町民が主役のコーナーとして、「声の広場」で県外から嫁いできた人の声や、「はばたけ！ちびっ子アスリート」ではスポーツ少年団の紹介などしてきた。

西浜

読みやすい紙面づくりも大事だが、あまり簡素になって議会の使命を見失ってはいけない。

議長

「議会だより」は議会本来の使命と、町民に関心を持って読んでもらう二面性が必要ですが、今後はどうあるべきと考えますか。

溝田

当初の紙面に比べかなり進化し読みやすくはなっているが、議会と直接関係のない町民主体の記事も二ページくらいは必要でないか。やはり子供のいきいきとした動きのある写真がいい。

西浜

字数を少なくし修正した結果、質問と答弁がずれているときがある。今後は、何か新しいことを取り入れステップアップして欲しい。アンケートも全議員が協力し取り組む必要がある。

国清

読んでくれない年代層をターゲットにし、紙面を抜本的に変えるのもおもしろい。ページ構成の順番を変えたり、地方議会なので地域の特性をどう伝えていくかを考えてみては。

大西

現在は「阿波勝浦八景」を表紙の写真にしているが、今後は元気な子供の写真も載せるなど、いきいきとした紙面づくりをめざしたい。



大西委員長

あなたの**声**を活かして

親しまれる**広報**に

「親しまれる広報」をめざし
町民にインタビューをしました。

表紙にもっと

インパクトを

西尾まどかさん（星谷）

熱心にみかん作りをしながら、少年野球をしている二人の子供の応援にも駆けつけている。

議会だよりはいつも読んでいるが、表紙に議題が分かるインパクトほしい。

また、議会も地域に密着した活動に取り組み、積極的に参加してほしい。

町政に望むことは、若者が町外に流失しないよう、雇用の促進と公平な社会にしてほしい。



「勝浦みかん」を

全国区に

岡田 晃さん（星谷）

今年の成人式で「勝浦みかん」を熱く語っていた新成人に、今後の勝浦町について聞きました。



現在、石井の農業大学校でみかん栽培などを学んでいる「勝浦みかん」を愛媛や和歌山などと勝負できるブランドにし、しっかりとした販路を確保することで、収入も安定するのでは。

議会だよりは読んだこともないし、だれが議会議員かも知らない。

今後は、若者が活躍できる場を作って、「地元愛」あふれる地域になってほしい。

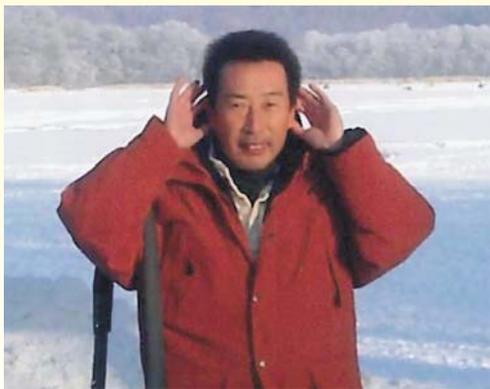
夢と希望を 与える政策を

木原 毅さん（棚野）

陸協会長として駅伝勝浦チームを支えている。

国会では政権が代わり、新たな取り組みが始まっている。マニフェストの是非はともかく、地方も変わらなければ生き残っていけない。

「勝浦の将来の姿」、「町民に夢と希望を与える政策」など、具体的に建設的な議論を期待する。議会の真価が問われる一年になるのでは。



小・中学生の 「子供議会」開催を

戸田千恵美さん（坂本）

ふれあいの里さかもとで「読書が好きです」と笑顔で語ってくれた。



議会だよりはいつも読んでいます。活字離れが進んでいるなかで読みやすく分かりやすい言葉と、施設の改善では前後の違いを写真で示すなど検討を。

行政に対しては、子供たちが興味や関心を持つように、小・中学生の「子供議会」を開催するなど、開かれた議会を望みます。

信頼できる政治を

立石 進さん（今山）

自分たちが選んだ議員の活動を知るために議会の傍聴をしては。

政権交代後、初の新年を迎え希望と期待でスタートしたが、それとは裏腹に金権政治が話題になっています。

我々国民が政治を信頼してこそ希望の持てる明るい社会になります。

「人民の人民による人民のための政治」が基本です。

信頼のできる政治をお願いします。



議会だよりは 貴重な情報源

畑名一司さん（横瀬）

「畑名みそ」の六代目で、新製品を次々と発売するなど、頑張っている青年。

私にとって議会はあまりなじみがないところだが、議会だよりが貴重な情報源になっている。例えば沼江バイパス事業は議会だよりで知ることができたし、その他多くの情報も得ている。

議会だよりは内容ごとにタイトルが付いているので、自分に関心がある記事がつかめると、文字数も少ないので読みやすい。



一般会計補正予算

1億7,187万円を可決

予算総額 34億5,068万円に

12月
定例会

「よってネ市」改築に

三、一六五万円の補助

◎ 補正予算の主なもの ◎

- 農林水産費(よってネ市改築補助金) 3,165万円
- 消防費(防災情報通信整備) 601万円
- 災害復旧費(台風9号、18号による災害7ヵ所) 5,107万円



よってネ市 完成予想図

十二月定例会は九日から十八日までの十日間開かれ、二十一年度一般会計補正予算、勝浦町公益的法人等への職員の派遣等に関する条例や勝浦町デイサービスセンターと横瀬、生比奈保育所の財産の無償譲渡についての条例等を審議し、全員一致で可決しました。一般質問では八人の議員が登壇し、町の考えを問いました。

年頭にあたって



議長 川端雅夫

民主党政権が誕生し、百日が過ぎた。今までは違い、予算編成に当たっても透明性が見て取れる。その一方で不確定なところも多々ある。今後、十分政策を見極め、町民本位のために頑張っていきたい。今年もよろしく願います。

主な議案質疑

「よってネ市」改築補助金

問 補助金三千百六十五万円は、町民全体の利益につながらなければ意味がない。運営等についてもJ A、商工会、町の連携が必要だ。

答 三者で組織する直売所運営委員会を設置し、運営に参画する仕組みをつくる。「道の駅」の中で「よってネ市」が農・商・工の連携施設として町の活性化が図られるよう期待している。

9月定例会において総務常任委員会に付託されていた、平成20年度各会計の決算について委員長から「特に留意すべき事項」を付け認定すべきと報告があり、全員一致で認定しました。

【主な留意事項】

総務税務課

新型インフルエンザ対策について適切な対応をされたい。

産業建設課

農業振興の充実強化のため、中山間地域等直接支払制度などを活用した推進策を講じられたい。

福祉課

慰霊祭並びに敬老町民のつどいのあり方について、必要性も含め検討されたい。

住民課

農業集落排水施設について、地元体制の再構築を図られたい。

教育委員会

勝浦中学校改築については、早期着工にむけ万全な体制で取り組まれたい。

勝浦病院

地域医療の役割を果たすため、計画的な医療従事者の確保に努められたい。

第二回臨時議会

十一月十日に開き、新型インフルエンザのワクチン接種補助拡大に伴う補正予算について審議し、全員一致で可決しました。

第三回臨時議会

十一月三十日に開き、人事院勧告の実施による職員給与等のカットにより、「平成二十一年度給与改定に伴う関係条例の整理に関する条例」について審議し、全員一致で可決しました。

西浜議員が

永年勤続表彰



全国町村議会議長会創立六十周年記念として、議員在職三十年以上の榮譽を受け、永年地方自治功労者として表彰されました。

横瀬、生比奈保育所の 社会福祉法人への無償譲渡

問 台風などの災害で建物が損壊し、大規模な補修が必要な場合、町の負担はどうなるのか。

答 国と県が二分の一、町の負担は四分の一になる。

教育長に北島隆氏が就任

稲井前教育長の任期満了により、勝浦町教育委員に北島隆氏（柵野）の任命に同意しました。

十二月二十六日に開催された教育委員会において、互選により教育長に就任されました。

中田町長が再選



一月十九日に告示された勝浦町長選挙において、中田丑五郎氏が無投票で再選されました。

総務産建常任委員会

職員給与

0・2%カット

十一月二十四日

総務税務課長から二〇〇九年の人事院勧告の実施に伴い、一般職の給与を0・2%カットすることなど説明があった。審議の結果、長引く不況のなか民間との格差などを考慮し、臨時議会に提案することを了承した。

公益的法人に

職員を派遣

十二月一日

平成二十二年四月から保育所が民営化されることで、保育士を派遣する条件、身分等を定めた「勝浦町職員の公的法人等への派遣等に関する条例」について説明があった。

問

派遣される職員の身分保証と復帰後は。

答

職員の身分、労働条件などを公務員の身分とすることは法人と協議済みで、復帰後も保証する。



横瀬保育所

地区統合補助金交付

条例の報酬を廃止

平成二十二年度から、区長等の報酬が一括交付される「地区統合補助金交付事業」が実施されることから、条例で定められていた区長、指導部長、保健部長の報酬が削除されることとなり、条例一部改正の説明があった。

問

交付された補助金の配分は、各区に任すのか。

答

各区で内規等を作り自主的に運営してもらう。

委員会ハイライト

文教厚生常任委員会

インフルエンザワクチン

接種補助増額

十一月二日

新型インフルエンザワクチンの優先接種対象者のうち、一歳から高校生、妊婦、一歳未満児の保護者および基礎疾患のある方については、二回接種のうち千円の補助を行うと提案されたが、子育て支援に積極的に取り組む面から、さらに増額をすべきと提言した。

その結果、一歳から小学校六年生と妊婦、一歳未満の保護者（二人）は全額、その他は半額補助の増額になった。



ワクチン接種

保育所の建物を

無償譲渡

十二月三日

保育所が民営化されるのに伴い、建物と付帯する設備および備品一式を無償譲渡する提案があった。

問

将来、保育所が統合されるようになった場合どうなるのか。

答

統合による廃止の場合、三年前に報告の義務があるので、更地にして返却してもらうのかどうか検討する。



生比奈保育所

総務産建常任委員会

10月28日～30日

■ 自立と協働の

まちづくり

今回のテーマを「自立のまちづくり」とし行政視察を実施した。

茨城県・八千代町では、特別職・職員の給与・人員削減など行政改革を実施している。



クライガルテン八千代

特に大幅な人員削減が住民サービスの低下にならないように「電子自治体」の推進などに取り組んでいる。

また、都市と農村の交流施設として、滞在型市民農園「クライガルテン八千代」が整備され、入所希望者も多く好評である。

栃木県・塩谷町は行政のスリム化、時代に合った行政サービスの効果的な財政運営を三本柱とし、行政改革に取り組んでいる。

特に町民が行政に参画する「協働のまちづくり」を重点施策として取り組み、全地区に町職員を「行政連絡員」として配置している。町主催の「敬老行事」を各地区主催の行事と合わせて開催していることなど参考になった。

文教厚生常任委員会

10月14日～16日

■ 病院の透析治療

勝浦病院も開設しては

長野県の飯綱病院で、透析治療と医薬分業への取り組みと将来の展望について研修を行った。



患者から喜ばれている透析治療

透析治療は住民からの要望が強く、平成六年から、空いていた八畳の分婉室を利用し、ベッド二台、いす三台で治療を始めた。

現在はベッド数十二台で二十七名が治療を受けているが、患者からは通院の負担軽減や災害時の心配がなくなったことで喜ばれている。

今後、糖尿病患者の増加が予想されるので、勝浦病院でも透析治療の開設は検討されるべき課題である。

■ 中学校改築に伴う 太陽光発電システム設置

群馬県の玉村町では中学校改築にあわせて太陽光発電システムを導入している。

屋上に太陽光パネルを設置し、二十kwの発電能力があるが、年間電気代の十五分の一しかまかなえない。さらに、設置費用や耐用年数など費用対効果を考えた場合、環境教育の一環としても設置は「もったいない」のでは。



屋上に設置された太陽光パネル

協働のまちづくり

住民の声と

職員の参加を

「地域懇談会」を開催

(総務税務課長)

国清 一 治 議員



「地域の設計図」として、地域と行政が密接な関係を作るため、町職員を「行政連絡員」として全地域に配置してはどうか。

また、住民の生の声を聞く場を持つべきでないか。

答 副町長

「行政連絡員」は、

行政と各地区・住民との緊密な連携として有効であり検討したい。

答 総務税務課長

「総合計画」の策定に向けては、住民参画の機会を多く持つため住民アンケートを実施しており、今後、二月から三月に「地域懇談会」を開きたい。

問 行政に住民が参画する「協働型社会」は、厳しい町行政にとってなくてはならない施策であるが、その体制もできておらず、町の行事やイベントに職員の参加も少ない。現在、平成二十三年度に向け「勝浦町総合計画」の策定中であり、冒頭に「住民参画による協働のまちづくり



伊丹総務税務課長

「道の駅」

人形文化交流館の整備は

問

町は「人形文化交流館」を公共性の高い施設として「道の駅」と一体的に整備し、文化の交

流拠点として国の「まちづくり交付金」の対象になると答えてきたが、その後どうなったのか。
また、施設所有の法人から施設譲渡の「要望書」が出ているが、どう対応しているのか。

答 副町長

「人形文化交流館」

は賑わい創出の拠点として必要不可欠な施設であり、改修計画を「まちづくり交付金」の活用の中で幅広く検討をしている。

九月に施設譲渡の「要望書」の提出があり、現在、検討中である。

勝浦町もすべき 事業選択

問

町の決算状況を見ると、全く開かれていない会議や参加者が少ない行事等が多く見られる。新年度予算編成に向けて事業選択をすべきである。

特に「敬老町民のつどい」は内容がマンネリ化しており、参加者も一割程度と非常に少なくなっている。各地区の敬老行事と合わせて行い、経費を助成してはどうか。

答 総務税務課長

会議には、定期的開催したり申し立てにより開催するものもある。

今後、町条例等の定めに従い見直し検討したい。

答 福祉課長

「敬老町民のつどい」は参加者も少なく、内容の見直しと、地区の敬老行事に合わせて支援して行くか検討したい。



「道の駅」と併せて人形文化交流館の整備を

みかん輸出で 販路拡大を

業界連帯で促進（産業建設課長）

山野忠男 議員



問

過去にカナダに輸出されたみかんが現地で好まれ、クリスマスには日本のみかんを食べる習慣ができています。勝浦みかんの生き残りをかけ販路拡大に向け、農林水産省、JA、生産者と連携し輸出に踏み切ってはどうか。

答 産業建設課長

輸出が新たな販路になる可能性はあるが、食物貿易法の制限、契約価格の低迷、物流など問題の検証が必要であり、業界連帯で促進を図る必要がある。

答 副町長

東京卸売市場の徳島県産輸出みかんは、台湾向けに平成十八年に千四百kg、十九年に千六百kgの実績がある。

また、県においては平成十七年度にJA中央会や全農本部、県漁連、畜産協会などで組織する輸出促進協議会を設立し、輸出の啓発活動や情報収集、販路開拓などに取り組んでいる。

国の事業仕分けと 今後の町の対応

事業継続を国・県に

（町長）

問

国は二十二年度予算の概算要求額を九十五兆円としているが、十一月からの大胆な事業仕分けにより、間伐作業道や農道担い手など農林業関係予算の廃止や削減が出された。また、公立学校施設や義務教育費予算も削減や見直しされたが、町としての影響と対策は。

答 町長

国の事業仕分けにより農林業関係予算が課題となっており、特に農道関係が廃止になると言うことで県に継続を要望しており、今後国に対しても強く働きかけたい。

答 教育長

事業仕分けで特に「英語教育改善調査研究事業」が廃止されると、今までどおりの英語教育が困難になるので、町独自の方法で取り組んでいきたい。

地籍調査

スピードアップを

問

町で地籍調査が開始され五年経過するが、完了は棚野地区だけである。もっとスピードアップできないのか。

答 産業建設課長

来年度から中山地区が始まるが、できることから杭打するなど工夫をしてスピードアップを図りたい。



地籍調査が始まる中山地区

新型インフルエンザ

ワクチンの確保は

問

十二月に入り新型インフルエンザの影響で、町内の小学校で学級閉鎖となったが、ワクチンは確保されているのか。

答 病院事務局長

ワクチン接種は、国の優先接種対象者の標準的なスケジュールにより実施しており、小学校においても今年二月二十一日までに実施する。



松本病院事務局長

横瀬小学校耐震補強

遅れているのでは

二十二年度に着工予定

(教育長)

節 公一議員



今後のスケジュールと新年度の予算計上の見通しは、**答 教育長** 太陽光発電システム設置の可否を検討しているが、結果が出れば実施計画を策定し、二十二年度中に着工予定である。



稲井教育長

問 六月に耐震二次診断の結果が出てから、現在まで具体的な動きが見られない。
地震防災対策措置法の期限や設計図の審査期間、適正な工事時期などを考えた場合、既に設計図ができ上がっていないかと思うが。

答 副町長

現在、新年度予算の編成作業中であるが、工事

費の計上については設計内容やスケジュールにより当初予算にするか、補正予算で対応するのか十分検討していく。

保育所民営化

新年度予算の

節減額は

問

民営化することによって町の経費が削減でき、その分を子育て支援にまわすという方針であったが、新年度でいくらか削減できる見通しなのか。新しい子育て支援としてどのようなメニューを考えているのか。

答 副町長

また、社会福祉法人の経営状態をどのように把握していくのか。
試算であるが新年度は約千八百万円が節減できる予定である。

社会福祉法人の監査は県から権限委譲を受けており、運営状態、防災対策などを適切に把握していく。



地割れが2カ所発生した櫻淵地区

答 町長

子育て支援については、今後も保護者の経済的負担ができるだけ軽くなるよう取り組んでいく。

措置で心配ないのか。
また、今後の予算獲得の見通しは。

答 産業建設課長

現在、シートなどで雨水浸透対策をしているが、随時、状況確認を行い対応していきたい。

櫻淵地区の急傾斜地崩落対策予算は

問

八月の台風の影響で地割れが2カ所発生しているが、現在の応急

新年度予算については安全・安心対策の一環であり、確保できるものと思ってい

細菌性髄膜炎

ワクチン接種に助成を

任意接種なので考えていない

(町長)

井出美智子議員



ある。

現在、世界一三三カ国で定期接種になっている。町で公費負担すればいくらかかるのか。

また、子育て世代への周知徹底を図り、子供の健康を守るよう取り組む必要がある。県下に先駆けて助成をしてはどうか。

国に対しても早期の定期接種を求めるべきではないか。

答 福祉課長

一回七千円とすれば、年間約一六五万円が必要となる。

答 町長

任意接種なので助成は考えていない。国に対しては、定期接種化を求めている。

任意接種なので助成は考えていない。国に対しては、定期接種化を求めている。



岩佐福祉課長

デフレ下の農業活性化を

調査、研究し結果を出したい(町長)

問

平成始まって以来の大暴落の様相を見せるみかん市場。すだちやゆずの価格も安く、比較的安全していたイチゴまでも厳しい状況になっている。

農業資材高騰やデフレ・購買力低下の経済情勢に対応するため、低コスト生産の技術開発や普及支援、高齢者でも負担が少なく、楽にみかんの貯蔵ができるような農機具の開発に取り組む必要があるのでは。

また、環境にやさしい農業のために土着天敵の活用

また、環境にやさしい農業のために土着天敵の活用

推進、ナギナタガヤなど除草剤を使用しないで栽培できる方法について、普及・推進するための補助制度を創設してはどうか

答 産業建設課長

勝浦町は他町村よりも農業に手厚い補助制度がある。今後も現行制度の活用で対応して行く。

答 町長

補助事業の創設は考えていないが、提案を参考に調査、研究し結果を出していきたい。

農機具の開発は、一台あたりのコストが高くなり難しい。貯蔵庫改造等に補助事業を活用するなどし負担軽減に努めたい。



草生栽培の普及を(ナギナタガヤ)



後期高齢者医療制度

保険料は上がるのか

アップを極力抑えたい（町長）

森本 守議員



余金を全額充当することに加え、県に設置している財政安定化基金の取り崩しなどにより、アップを極力抑制するよう県と調整している。

問 来年四月に二年ごとの保険料見直しとなるが、広域連合ではどのような予想なのか。

また、払えない人の対応策は。

答 町長 保険料は厚生労働省の試算

では全国平均で十三・八%アップとなる。

このため広域連合では剰

簡易水道

料金等の格差は

問 簡易水道が町営になつた今、各水道組合に施設や料金、積立金などの格差を将来どのようにしていくのか。

また、中横水道組合では、水源地上部が開発され、川の水を入れなければ水量が足りないうえに、ろ過設備



ろ過設備が十分でない中横水道の水源

が十分でないので濁りが激しい。町としてどのように対応していくのか。



倉坪産業建設課長

答 産業建設課長

町としては可能な限り各水道組合と協議し、統合の方向に進めたい。施設の老朽化による更新は行わなければならない。濁り対策としては抜本的な解決にはならないが「美しい森林作り事業」や間伐により水質の確保に努めた

正木ダム関連二十八項目 残事業は

問 県道二車線化について町内や飯谷地区

にまだ残っている。河川においても改修が完了していない。

二期目をめざす町長は正面から取り組む意欲はあるのか。

答 町長 徳島市長と協議し、東部

県道整備局にも強く要望している。

町長の政治姿勢

どんな町づくりをめざすのか

安心して

元気に暮らせる町に（町長）

大西 一司 議員



問

中田町政の四年間は川口町政から引き継いだものがほとんどで、独自の政策は少ない。二期目をめざすと言うが、将来勝浦町をどんな町にしたいのか。

答 町長

小松島市へのごみ処理の委託、沼江バイパスの着工、県道柳原工区の完成、勝浦



仁木副町長

病院では高度な機能を持つ機器の導入等で充実を図ってきた。子育て支援にも力を入れていく。今後は小・中学校の耐震化工事や道路整備を進めていく。また、「道の駅」を建設し将来、町の活性化につながる施設となるよう取り組み、これからも町民が安心して元気に暮らせる町づくりをめざしていきたい。

二十一年度予算

執行率が低い！

年度内の事業執行をめざす

（産業建設課長）

問

現在の予算は、国の経済対策の交付金等で五億円余りが上積みされ、三十四億五千万円となっている。事務作業も大幅に増えているが、補正対応にはスピード感が要求される。特に景気対策に必要な農林水産費や土木費の執行率が低い。早急な対応を。また、職員減による事務作業の遅れなど影響はないのか。

答 産業建設課長

九月補正の経済対策交付金事業などにより、林道開設や道路改良事業が遅れている。災害復旧事業も十件発生し、優先されるため町単の道路改良事業も二十％と低い。可能な限り年度内執行に向け取り組んでいきたい。

答 町長

事務体制については、今年度で行財政改革の集中改

革プランも終わるので改めて検証していきたい。

「よってネ市」

改築補助金の支出根拠は

農・商・工連携に期待
（副町長）

問

「よってネ市」改築工事費の四分の一を町単補正として三千百六十万円を計上しているが、支出金額の根拠は何か。

答 副町長

国の強い農業づくり交付金として国庫支出金が二分の一、町が四分の一を

補助し、農・商・工の連携施設として町内の農家や商業関係者も含めて幅広い会員を集め運営、地域経済の活性化の重要な役割を担っている。

また、「道の駅」に不可欠な地域振興施設として集客の起爆剤の一つとしても期待している。

■その他の質問

- 経済対策について
- 中角通学路について
- 生名谷川砂防ダムについて



急ピッチで進むよってネ市の改築

環境問題

分別ステーション 今後の対策は

現地説明会を実施(住民課長)

松田 貴志 議員



が、町として県に悪臭防止法での規制地域の指定について要請する考えはないか。

答 住民課長

地区により運営

方法が異なり、分別方法の浸透具合も違っている。今後は、各ステーションにおいて住民立ち会いの下、担当職員による説明会を実施していきたい。

答 町長

ゴミの収集運搬の契約方

法については、できるだけ競争原理が働くように見直しも含め検討したい。

また、悪臭については具体的な要請があれば事実関係を調査し、県と十分協議の上、法令に従い対応したい。

問 各地区に設置されている分別ステーションの利用状況と今後の対策は。

歳出削減に向け、ごみ収集業務などの契約方法の見直しや新たな業者選定をすべきでは。

以前から工場等から排出される悪臭で周辺住民が影響を受けている地域がある



豊岡住民課長

町長の政治姿勢 スポーツクラブ への支援は

ある程度の補助金は必要

(町長)

問

四月に設立されたスポーツクラブ（Friends）は関係者の努力により、少しずつだが会員も増えている。現在は toto（サッカーくじ）の助成金のほか、町の補助金や

答 町長

現在、職員を派遣しているが、自立運営していくためには会員増が必要である。今後もある程度の補助金は必要と考えるが、町のスポーツ事業やイベントの委託等により会員増につなげ、スポーツを通じた成人病対策等に取り組むなど、健康なまちづくりの核として自立して欲しい。

また、元気市には二千五百人余りが参加し、町内外に元気な勝浦を発信すると同時に、町内のさまざまな団体の交流や連携ができた」と聞いている。

今後は、当日のアンケート調査の結果やスタッフの意見を参考に、「道の駅」が集客の起爆剤、町内の各種団体の交流拠点として、元気市の賑わいを再現できるようにステージにしたい。



現地で分別方法の説明会を

新年度の予算額は

十六億円くらい

増額の見込み（総務税務課長）

西浜勝己議員



問 新年度予算方針と総額の見込みは。
また、地方交付税の見通しは。

答 総務税務課長

「道の駅」の情報館、横瀬小学校の耐震補強工事等を予定しており、今年度より十六億円くらいの増額になる見通しである。

また、地方交付税について、政府は地域主権を確立するための第一歩として一兆一千億円の増額を予定しているの、町も増額の見込みである。

職員体制

見直すべきでは

問 厳しい財政状況のなか、予算を計上したにもかかわらず、昨年度も未執行の事業が多くあった。予算執行に向けて本当に住民の負託に伝えて取り組むことができるのか。職員体制を見直すべきでないか。

答 町長

現有勢力を守りながら町民サービスの低下にならない



中田町長

いように心がけたい。

特に、集中改革プランは今年度で終了するが、新年度以降もムダのないような行政運営をしていきたい。

「過疎新法」

その後の動きは

問

県下二十四市町村のうち、十三市町村が過疎地域に指定されている。政府は来年三月に期限が切れる「過疎地域自立特別措置法」について延長することに決めているが、現在の過疎法は施設整備にしか使えない。

今後は基金の創設、医師確保や人材育成などのソフト事業等に活用できると言われている。

町として過疎法の利活用についてどのように考えているのか。

答 副町長

新政権でも引き続き新法を制定し、現行どおりの運用がされると聞いている。

中学校の改築や「道の駅」などの整備事業においても過疎債を活用したい。

また、県を通じてソフト事業にも活用できるように要望しており、新たな法律の内容を精査し幅広く検討していきたい。

民主党の陳情システム

今後の対応は

問

民主党徳島県連のメンバーが要望・陳情の新ルール説明のため来町したと聞くが、その内容と今後の対応は。

答 町長

来町したときに幹線道路の整備や鳥獣害対策など八項目を要望した。

新ルールの説明では、利益誘導型政治から脱却、透明性、公平性を確保するためとのことであった。

今後、県・各町村とも連携し陳情運動をしたと考えている。



中学校の改築にも過疎債の活用を



K-Friends

ケーフレンズ

会員数 355人
(1月20日現在)

最近、老若男女がリズムに合わせて楽しくからだを動かすヒップホップダンスをよく見かけます。

今回は子供が集う「キッズダンス教室」を紹介します。幼児から小学生までが、手足をいっぱい広げてからだ全体で楽しく踊っています。



元木知佳
先生

ダンスはむつかしいと思われがちですが、リズムに乗って楽しむものです。ムリと思わずにいっしょにやりましょう。

ダンスを通じてあきらめない心や、挑戦する気持ちの大切さを教えたいです。

キッズダンス教室

参加者の声

リズムに乗って踊れるのが楽しい。
定作和奏さん

練習したら上手になれるので嬉しい。
定作智帆さん

側転をするのが楽しい。
今井ほのかさん

大勢で踊るのが楽しい。
酒井しおりさん

将来はダンスの先生になりたい。
新開未玖さん



練習 毎週土曜日 午後1時～3時

問い合わせ・申し込み先

K-Friends事務所(町民体育館、改善センター)
電話 0885-42-3671
FAX 0885-42-3300
E-mail kfriends@27.fan-site.net
http://kfriends.fan-site.net/index.html



「ひな祭り」LEDで飾りつけ

五十号は一つの通過点とはいえ、これまで愛読してくれた町民の皆様のご支持がなければ我々の気持ちは上がらない。見やすく中身のあふれる広報紙として、さらに進化できるよう研さんを重ねていきたい。

(委員長)

広報に対するアンケート調査を実施し、町民の問いかけや町政に対する疑問点等も紙上で丁寧に答えている。町民との対話集も定期的に発行し、問題点等について話し合っている。我々もぜひ見習いたい。

五十号特集発行を前にして、昨年十一月広報常任委員会は秋田県羽後町などの先進地を視察した。感心したのは編集内容はもちろん、委員の情熱の高さであった。

編集後記

